



クローズアップ
CLOSE UP

400年続く伝統今年も

新春恒例の初市まつりを1月9日に開催。国道50号本町通りを中心に、だるまなどを販売する露店が軒を連ねました。前橋八幡宮で古だるまのお焚き上げを行った後、渡御行列がまちなかを練り歩き。多くの人々が縁起物を求め、夜まで活気にあふれていました。



成人への祝典に晴れ姿

1月13日、ヤマダグリーンドーム前橋で成人祝を開催。本年度20歳になる2,149人が出席しました。抱き合ったり写真を撮ったりと、地元の友人との再会にみんな笑顔。式典は実行委員が制作した動画から始まり、景品抽選会や書道パフォーマンスなどで盛り上がりました。



新春出初式で防火啓発

消防隊出初式を1月6日に前橋公園で開催しました。消防隊員などによる姿勢・服装点検や分列行進で士気を高めるとともに、幼年・少年消防クラブのマーチングバンド演奏も実施。毎年恒例、伝統のはしご乗りでは次々と披露される技に観客から歓声が沸きました。



多様性がアート前橋の魅力

アート前橋のサポーターとして活躍中の松本さん。サポーターの活動は、アート前橋の運営やイベントの支援、記録資料を収めたアーカイブの整理など多岐にわたる。「家にこもっていただけられないようなことをできるので楽しいですね」
昨年度までは来館者の鑑賞を支援するアートナビゲーターの活動もしていた。「学校行事で来た小学生の対応が多かったです。大人とは違う子どもの発想や気付きが面白くて」
スケジュールの都合などで、今年度はサポーターのみとなったが、アートとの関わりは続

けている。そんな松本さんが、芸術とあまり縁のない生活を送ってきた。
「仕事はずっと土木関係。芸術の知識もなかった。そんな人間でも活動できる点に気に入って、関わるようになりました」
アートの多様性に引かれた松本さん。その魅力をもっと多くの人に知ってほしいと思っている。
「ここに来れば新たな発見があるはず。多くの人に実感してもらいたいですね」
松本さんのような人たちにアート前橋が支えられることで、本市の芸術文化の多彩さはさらに深まるだろう。

暮らしに密着
工科大 LABO

Vol.5
前橋工科大
☎ 027-265-0111
今回は生物工学科です

前橋工科大は、科学と工学で生活を快適に、安全に、そして持続可能にすることを目指しています。このコーナーでは、日々行っている研究内容や暮らしに役立つ豆知識を各学科から紹介。今回は生物工学科の本間知夫教授がお届けします。
私たちの生活と密接に関わる食品や健康、美容、環境などには、生物の力や生物が作る有用物質が役立っています。そこで生物工学科では、生物の能力を調べる工学技術の開発を目指した研究を行っています。その中で私は電気信号を測ることで植物の状態を非破壊的に調べる研究をしており、前橋駅前通りのケヤキでも測定しています。ここでは、植物に備わっている感覚と電気信号の話を紹介いたします。



このように電気信号を測ります

オジギソウは触ると葉を閉じますが、この時オジギソウの中では電気信号の変化が起こっています（触覚）。植物に声を掛けたり音楽を聴かせたりすると育ちがよくなるという話を聞いたことがありませんか。その理由はよく分かっています。音はよく聞かせると電気信号が変化し、その変化は音楽の種類によって異なります（聴覚）。光を当てた場合（視覚）、におい物質を当てた場合（嗅覚）、肥料をあげた場合（味覚）にも、植物の電気信号は変化します。このように植物にも私たち動物と同じ五感が備わっていて、その五感を駆使して生きています。それが分かれます。そしてその様子は、電気信号を測定することで知ることができるようになります。今回は、総合デザイン工学科です。